



HUTAN

No. 2

1988・7・29

¥100

大阪市北区中崎西1-6-36 サクラビル新館308
「自然をかえせ！関西市民連合」事務所沢付
“森と生活を考える会” ☎ 06-972-1561 社印 06-301-0154(特稿)





官服のものは



は、

タイに行くとは何処へ行っても、ベ
ージユ色の官服を身にまとい、
人の多いのが、眼につきませぬ。

警察官・軍人は当然ですが、官吏
に始まって駅員や郵便局員、それに
学校の教師までが、制服の上衣に肩
章や、胸の部分には勲章をぶら下げ
るための暗章を付けて、いつでもふ
んぞり返ったような恰好をしていま
す。何を聞いても、何を言ってもに
こりともしない、まるで母親のお腹
の中に笑顔を忘れてきてしまったか
たいに見えるのです。

官吏たちは日常不斷に、大衆を驚
愕するための演技を心がけているわ
けではなく、タイ特有の「ナイイ」
の伝説を引き継いでいる感嘆みたい
なものであることに、私は次第に氣
が付くようになりました。

「サフディ・ナ」という制度は、タ
イの領土がすべて国王のものである
として、官吏には貴族の称号が与え
られ、その位階によって土地の使用
権が下賜されていきました。そのよう
な制度の下で、王族や貴族だった官
吏・軍人・警察官たちは、身分的な

威光をふりかざして、農民を始めと
する国民を驚愕しつつつけてきたので
す。

私は日本人だから、あなた方がい
くらいばつても驚きませぬよと、頭
の中で恰好をつけて、郵便局へ行っ
てみました。「ナイイ・ニイ・ミイ・
サテエン・カイマイ・クラップー

(ここで切手が買えますか。)窓口
の向うを見ると、立派な口ひげの局
員がベージュの官服に身をかため、
金ぴかの肩章と胸には勲え切れない
くらい暗章をつけて、ふんぞり返
っていました。私は氣持が萎えてし
まって、知らず知らずのうちに背が
丸くなってしまふのでした。

タイの田舎に行くと、むずかる子
どもをなだめるのに、「ナイイ・マ
ー」(役人が来たよ。)と言います。
日本流に言うくと、役人を見ると泣く
子も黙るといふことになり、いかに

役人が農民たちに嫌われ、恐れられているかがよく分かります。

七〇年代の後半に、カムマーン・

コンカーイという作家が映画のために書き下ろした「田舎の教師」には、全編をとおして役人の横暴と、結託して悪事を働く、幸橋の森林密伐探の様子が見事に描かれています。

役人たちは農民を抑圧するだけではなく、自分のふところを肥やすためには、自然破壊などは意に介さないように振る舞うのでした。

さらに衝撃的なのは、正義感に溢れた青年教師ピアの勇氣ある告発を闇に葬るために、手先の私兵を使って殺害してしまうことです。

ラテライトと呼ばれる土質は農耕に適さないので、タイでは最も貧しい地方だとされている東北（イサー

ン）の、ウボンラーチャーターニー県・パツク・イーヒンの南部は、雑木の密林がカンボジア国境まで続いています。

農民のおおくは原生林に入つて、茸や竹を採ったり炭を焼いたり、ヤーンと呼ばれる大木から油を採取する等して、細々と現金収入を上げていました。このささやかで平和に見える暮らしが、このささやかで平和に見える暮らしが、タイの法律では明らかに許されないことになっているのです。多額な許可を貰うための手数料や、狡猾な役人への賄賂を支払うことなどは、その日ぐらしの農民には及びもつかないことなので、自然を相手の素朴な労働も、絶えず役人の逮捕・リンチに怯えながら、続けなければならぬという不条理な毎日だったのでした。

この奥地でも、官吏と華僑の結びつきは固く、農林大臣の許可を取つ

たような顔をして、公然と華僑のボスたちは巨木の密伐探を始めるので、官吏の後援があるから、大規模な製材工場も建設します。私兵を使って、森で採取をしていた農民を捕えてきて、リンチをかけて痛めつけます。小学校の教師ピアは、密伐探やリンチの現場をフィルムに収めて、友人のいるバンコクの新聞社へ密かに送りつけました。新聞紙上に密伐探の記事が大きく報道されると、役人の腐敗に刷れきっている筈のタイの社会でも、あまりの無法さに大きな反響を呼びました。

新聞報道による告発を受けても、密伐探のボスたちは役人と結託しているのですから、法律上の制裁などまったく気にすることがなかったのです。反省するどころか、今度は記事の出所の探索に躍起となります。

やがてピアの住んでいた壘立小屋

からネガの一部が発見されて、青年教師は私兵の凶弾によって、地上から姿を消してしまふのです。

国土はすべて国王のもの、その王権を打ち出すことによって、官吏たちは自らの権力を正当化し、国内経済の実権をあますところなく握っている華僑に、非合理的な過保護を与えて、その利益配分にあずかるという、おぞましいようなこの国の社会構造が変わらないかぎり、タイの豊かな自然はいつの日にか滅びてしまふのではないでしようか。

「この歪んだ華僑資本のやり方に、日本の経済侵略が巧妙にデユエントしているのは、合弁企業の実態で明らかです。」

国家保護林への農民の侵入 (1974年現在)

地区	保護林数	保護林面積	侵入面積	農民の侵入件数
		100万ライ	100万ライ	件
北部	64	10.68	0.66	65,459
東北部	43	5.35	0.63	126,149
中部	30	6.43	0.65	18,439
南部	65	6.38	0.18	12,128
計	202	28.84	2.17	222,175

自作農と借地農の割合

地域	1968年～69年				1976	
	自作農		借地農		借地率	
	家族数	%	家族数	%	家族数	%
中部	296,947	59.34	201,285	40.66	352,632	41.31
北部	594,354	81.72	129,400	18.23	912,858	30.84
南部	308,729	84.37	52,245	15.63	101,004	17.48
東北部	1,511,728	97.33	32,265	2.67	157,967	8.68

農民と都市住民の年間一人当り所得(1960年～1985年)

年次	農民1人当り所得	都市住民1人当り所得	都市住民に対する農民の所得割合
	バーツ	バーツ	%
1960	1,044	6,434	16.2
1970	1,310	8,618	15.2
1975	1,433	10,061	14.2
1980*	1,525	12,961	11.8
1985**	1,724	15,110	11.4

*、**は推定、***1バーツ6円

切りくずされるジャングルで(2)

——雨に打たれて——

西園 實夫

華僑が経営する店と僅かな村落。

ロング・タマラの貯木場には四〇トンの大型車が集まり、木材をクレーンでバラム川へ落としていく。あちこちに長さ一〇呎位のラワン、アピトンが人間の背丈を越える高さに積まれてある。切り開かれた伐採道路の両側にも大小の木が倒され、僅かに残った草が痛々しい。泥と赤土がむき出した世界。

ジープに乘せてもらい、奥の伐採地へと向かう。なだらかな坂を幾つも越えるが、太い大木は殆ど見あたらない。台地状の原生林はことごとく薙ぎ倒され、商業用にならない細

い灌木だけしか生えていない大地。行きに空から見た熱帯林の美しさに息をのんだもの、その林は殆ど二次林や植林だったのだ。

車を運転するイバン族の若者は、木材伐採の仕事をして七年になるという。彼は「六人の家族のために、この仕事を始めた。先祖の人々は焼畑や狩猟をしていたが、今は出来ない。土地はサラワク州のものにされたし、伐採権は殆ど華僑が握っている」と答える。

森を切り崩されて、赤土が露出したままの伐採路をジープが行く。「このジープはここで終わりで

あなたはここから奥へ行けないよ。伐採しているところはタマラの川岸より六〇kmも奥地なんだ。見たとおりに、もっと森が残されていたら」とボツリとしやべった彼。

河口のクアラ・バラムに積み重なるように澤く木材。木材が川を占有し、伐採道路が森の奥地へと伸びるサラワク。小屋でコーヒをいれてもらって、僕は土地を使えなくなつた人々が今まで抵抗するときになかったのか、それともそこに住んでいないからそう思うのか、とい考^わえが交錯する。しかし現在、伐採に反対したら令状なしに即逮捕なのだ。

ロング・タマラを離れ、行きのポイントで親しくなつたスンガイ・ダトゥに住むエマント君の家に寄る。柱の古くなつた高床式住居の上にある長大なロングハウス。そこが彼の家だ。

明後日は、河あがりの祭りが行われる。女たちは、ゴミを落として買った米を乾かす作業をしている。隣りの村から若者も老人もやってくる。

ラマント君のお父さんは、狩りにいって遅良く四匹の野豚をしとめて帰ってきた。いつもなら、二日に一匹獲れば良い方だと言う。ラマント君は、「焼畑もする土地がないから、仕方なく米と野菜を買って暮らしている。食べものが必死だから、木材会社で働いているんだ」と。

夕方、米と野菜と野豚を食べていたら、突然、トタン屋根を突きぬけ、そうなる雨が降りだした。僕は急いで、茶色くなった洗濯物を取りにゆく。

雨の中で喜々とはしゃぐ子どもたち。こんな大雨なのになぜ楽しいのだろうか。驚く僕。ロングハウスの通路からラマント君は、「雨は素敵な贈りものだ。飲み水になる。洗濯もできる。暑さも和らぐし、雨は森

を育んでくれる。しかし、森は森の手にはないけど……」

僕は、熱帯雨林の中で暮らす人々を、いつも雨が降るから、水を貯まないうつと思っていた。ところが、多雨のため水を貯まないうつという発想は、文明社会に埋没してしまつたものではなかつたろうか。我々は、自然の中に生きているかという感覚を忘れてしまつていた。この降る雨、飲み水にもなる水も誰のものでもないのではなかつたか。

我々は、文明社会の中で何の疑いももたず、平気な感覚で水道料金を払っている。また、何百年も生きてきた森は一瞬のうちに切られ、木材や家具という商品にされ、我々はそれを手にいれようと労働と時間を切り売りして暮らしている。何かを手に入れるために、何が採集されているのではなかつたのか。サラワクの森

は、日本人などが商品として使用するために伐採され続けている。

お金を払って好きなものを遊びなさいという、物があり余る我々の社会。使用する以上、百年も生きてきた命を大事にするのが本当なのだが、豊かな社会々では使つてしまえばすぐゴミにされ捨てられる。

子どもたちが僕を雨の中に引っぱって、笑顔で走りまわる。つられて僕も雨の中ではしゃぐ。文明社会の発想を、雨は心地良く打ちつける。

霧があがらない早朝に小高い丘へ登れば、緑一面のジャングルが広がる。ロング・ナハ、ロング・アカ、そしてH氏が住んでいるリンパン川流域も一望だ。だが今の時間から、食欲な所有権と森の商品化と伐採地の拡大のために、起重機が森の中に響きわたる始めるのだ。

ウータン・公開遊藝会・第一回目のリポート

— 88年4月 サラワフからの報告 — より

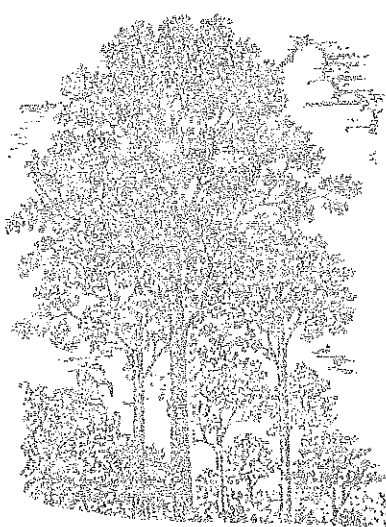
清水 知野

6月20日、西園長夫氏による大膽ダイアレクトのたっぷり入った、気さくで、しかしながら熱気のある語りで、会はどことんを進行した。

去る4月に訪れたマレーシア・サラワク州の現在の様子やスライドも使ったの説明がなされた。

西園氏にとってボルネオ島は想像よりも女船がはいっていた。昨年遠く離れた「地球の友」のメンバーを訪ねたり、大雨の中、後援ギャンブに滞在したり、一人ならではの活発行動ができたらしい。

ジャンルの距離感に人ごみ後援現場に着目して入らなるとして、感動の瞬間の飛行機から、本まのめさへさへす



のマンダロープの海運が滑るといふことから森が現実の住居を認識できよう。

遊藝会二回目をいっしょにで参加して下さった人達に「森」に近づく思いを述べ、

…昔、小笠原に行つた時の自然に接してからの驚きから…環境問題に関心があつて…半生時代からのこだわり…林業との結びつきから…マレーシアで働いてからのかわり…等等を話さば。

みんなそれぞれ森と生活をむすびつける糸をもっている。初めての会でもあり、知らないひと間志の中で、少々緊張も感ずってはいしたが、それぞれ「こだわり」をシェアする事ができたのではないだろうか。

ただ、参加者11名の中で女性の名だけというのは、いささか残念である。

本日に、森が自分の生活とどうなつていふかについているのかをいろいろ人が気付き、考えていく糸口を提示するにはもう少し努力が必要か。

出した！ ワタン会館で2号。
一人でも多くの人に活動を知らせ
たいと思ってる。
あせらば、こぼれる。……
やはり夏は暑いね。……
chiaki.u

あ
と
が
き

ボルネオから帰れば、暑さかわらぬ
いつもなら、コンクリート・ジャングルに
まいていたけど。 気候干燥！
原稿のメドは毎月15日 発行はまで。
投稿待ってま〜す。 (4)

スエーデン旅行記の
エネルギーは
豆乳で下になりませ。
ウチの左の川いおぬえと方法は
思ひがつかない。……
ます。おんなおんな、よといひ。
(5)

みんなが比較的 やる気になり、
リラックスしながら、——（ほらほら）やっ
ています。
夏——私に向かっては（かり）いかに
自然の中に生活を見たいか
思っているから私に向かっては
我々のこれから先のこと
いかに……？
Mitsuko.O

～森と生活を考える会～
＝“HUTAN”公開勉強会へのお誘い＝

7月27日(水) 6:30～8:30
“サバにおける森林事情”
発題：宮武 進 氏
場所：森の宮 市立労働会館

3月7日(水) 6:30～8:30
“ニューギニア・南洋材物語”
発題：田中 淳夫 氏
場所：YMCA国際奉仕センター

8月24日(水) 6:30～8:30
“日本で使われている南洋材とそのルート”
発題：牛島美成子氏
浦本知明氏
辻村方孝氏
場所：YMCA国際奉仕センター

9月23日(金) PM1:00～4:00
“生活の中の木材と森林伐採”
1) 黒田洋一氏(HUTAN)を交えて……
2) 総括～公開勉強会をふりかえって
3) 参加者と共に語る……
場所：森の宮 市立労働会館
会費：いずれも 500円 です。

9月3日(土)
野外勉強会～南港・木材貯木場見学
集合時間：AM11:00
集合場所：地下鉄ニュートラム
南港口駅改札口前

問い合わせ：☎06-301-0154 (ノハラギ・千鳥まで)
☎0727-28-3660 (鈴木 千里) 一週間
大阪市北区中崎西1-6-36 サクラビル新館308
「自然をかえせ・関西市民連合」事務所気付
“森と生活を考える会”までお願いします。

お弁当持参で～す。